

中根式




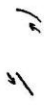









































速記の基本教程

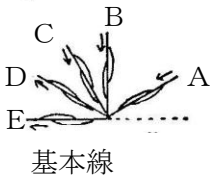
〔サウスポー用〕

ホームページ「速記道楽」

<http://www12.ocn.ne.jp/~sokkidou/>

中根式基本文字表

オ列	エ列	ウ列	イ列	ア列	
					ア行 ←
					カ行
					サ行
					タ行
					ナ行
					ハ行
					マ行
					ヤ行
					ラ行
					ワ行



覚え方

ア列の2倍はオ列

イ列の2倍はエ列

ア列の反対か濃く書けばイ列

オ列の真ん中に点を打てばウ列

クツフユは例外

線の種類

長短、曲直、濃淡、加点、方角の5つからなっております。

長短…… 1 : 2 (4ミリ、8ミリ)

角度

A = 30度

B = 90度

C = 60度

D = 30度

E = 0度

濁音

濁音は濃線にします。ヂはジを用い、グブツは右または上の中部に加点します。



半濁音

半濁音は、右または上の中部に半円をつけます。



ンのつけ方

「ン」は小円、ただし逆記します。例えばカンンのとき、ンをカンの頭に書きます。小円につけ方は、直線には右か上、曲線には必ず内側につけます。

なお、続ける場合には、無理のない、書きよい方につけます。



切線

同じ方向の同じ濃淡の直線が続いたときは、次のような切線を用います。

ただし、曲線の場合や「画家、むただし」等のように、濃線と淡線が続くときは、切線を用いません。

タダシ

画家

危機

天地

カコ

チチ



繰り返し

2音以上の繰り返しは、文字の終わりに、次のように「繰り返し標」をつけます。

オリオリ

シバシバ

オノオノ

イロイロ

タビタビ

ワレワレ



加點字

「ウスヌムル」のように、点のある文字が続くときは、文字と文字の中央に1つだけ点を打って、次のように省略するすことにします。

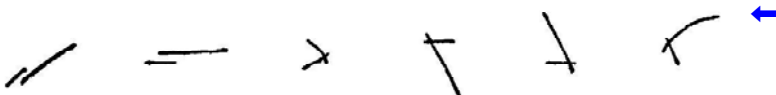
ヌル ウム ネムル ルスバン スズキ スル



詰音

詰音は、次のように組むか平行に書きます。

トッタ コッカ ヤッタ カッケ ケッカ ソッキ



文例



ニイカ クカンオ ニヒ ウヨト ノトンコ ←

ツコ カスマ イモオ トウヨシ イソサオ ←

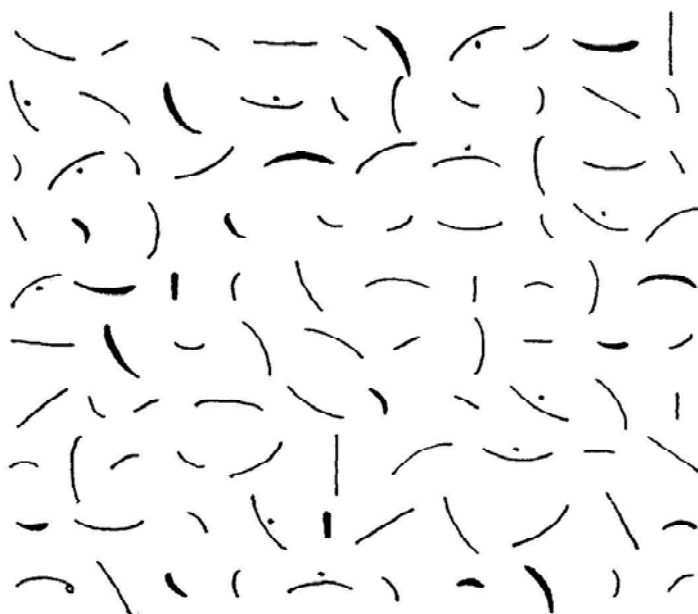
イサタク ワンテオ カステ カカイ コウ ←

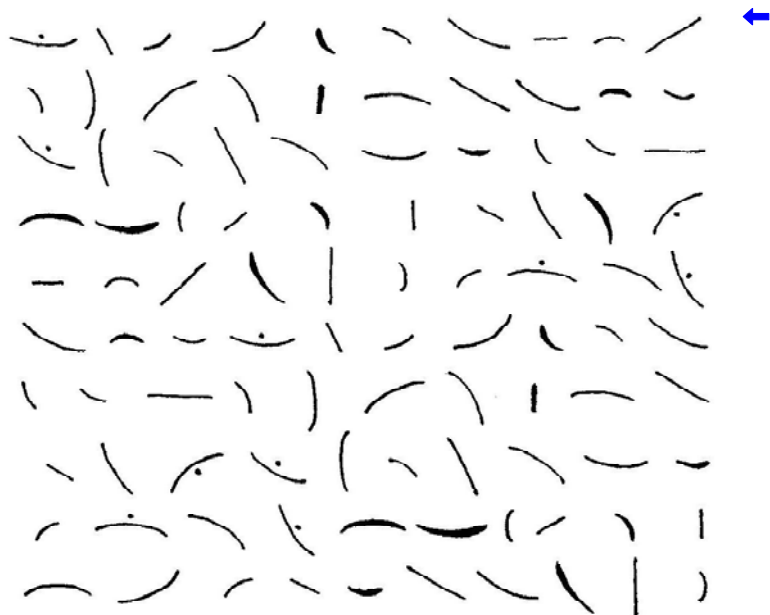
今度の土曜日に、音楽会に、お誘いしようと思いますが、ご都合いかがですか。お電話ください。

読む練習

速記文字は右から左へ読みます。

1 線練習



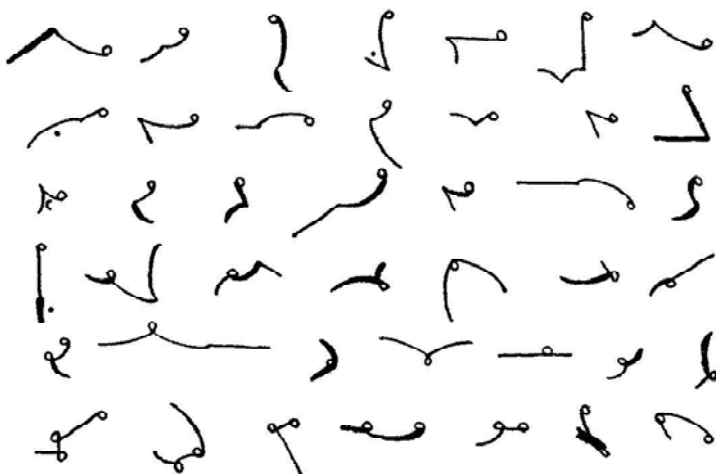


単語練習





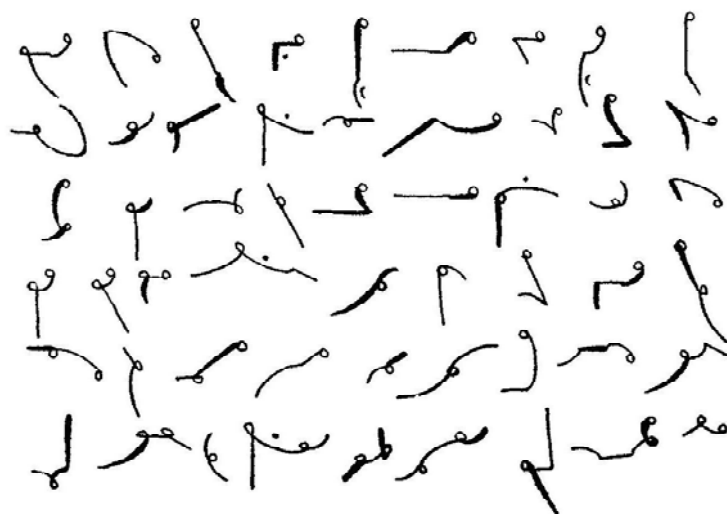
ン例題



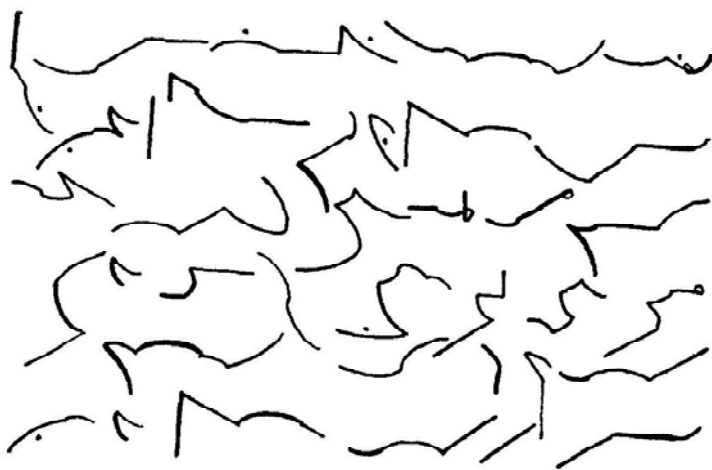
温度 紳士 便利 本部 今夜 天才 恩師
 タンス のんき 門下 進路 単位 奮起 言語
 安否 心理 銀座 前途 任期 縁故 万事
 天狗 放任 富士山 場面 絵本 記念 登山

森林 光線 油断 疎遠 禍根 自信 ボタン
とんちんかん 予算案 探検 念願 関心 論文 遠近

読む練習

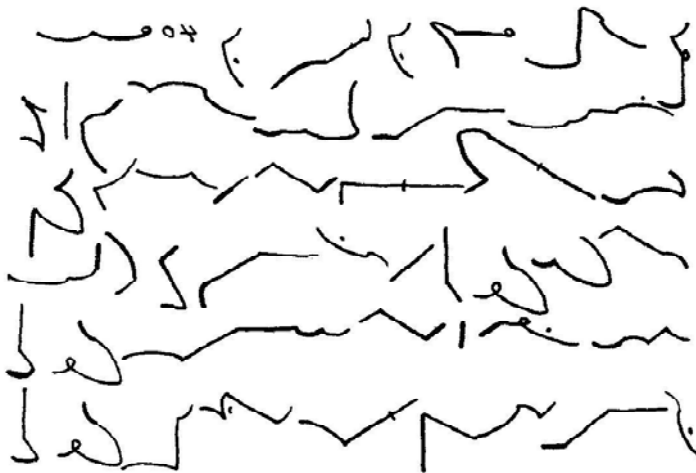


単文練習



自分の生命を打ち込むことのできる
仕事を持っている人は幸福であります。
そこにはどんな苦難が押し寄せようとも尽きない
感謝と新しい力と言ひ知れぬ喜びがあり、それと
ともに生きてゆくその生命は
仕事とともに不滅であります。

読む練習

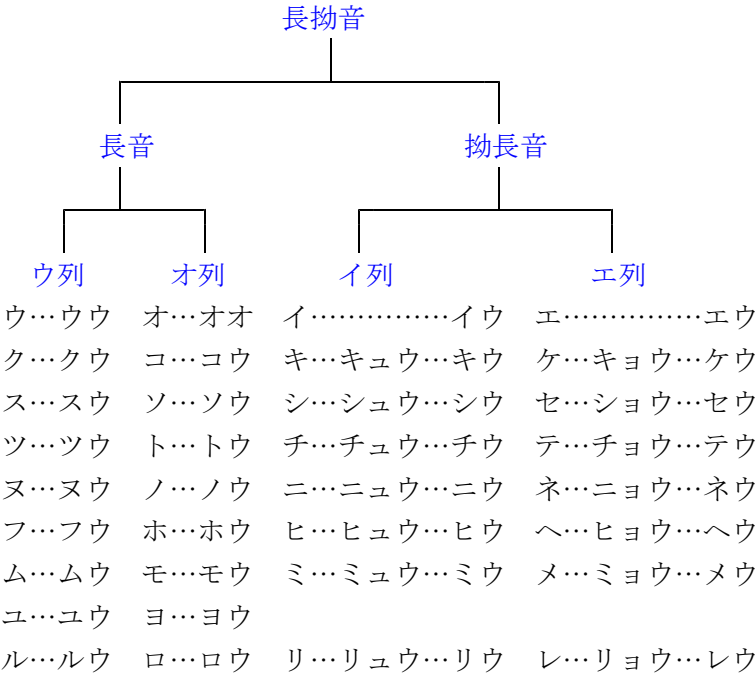


Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of cursive writing.

↑

長拗音

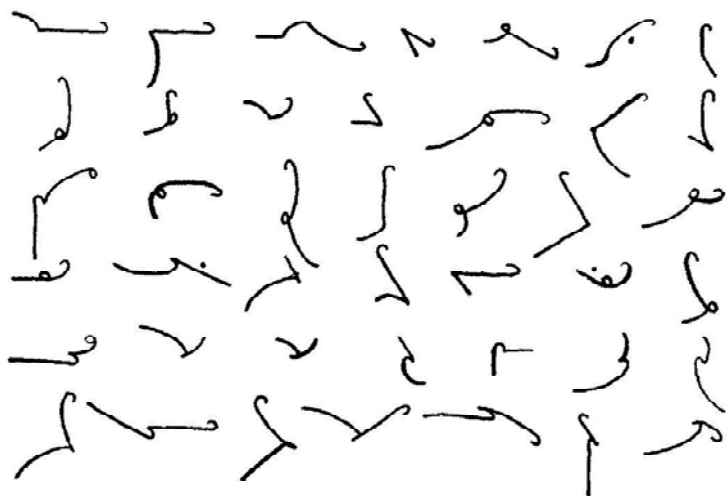
ウ列、オ列を長音、イ列、エ列を拗長音といっておりますが、次のように書いてみますと、どちらも2音目が「ウ」という形になりますので、ここでは長音も拗長音も、「ウ」のかわりに、頭に大カギをつけて簡単にします。



長拗音表

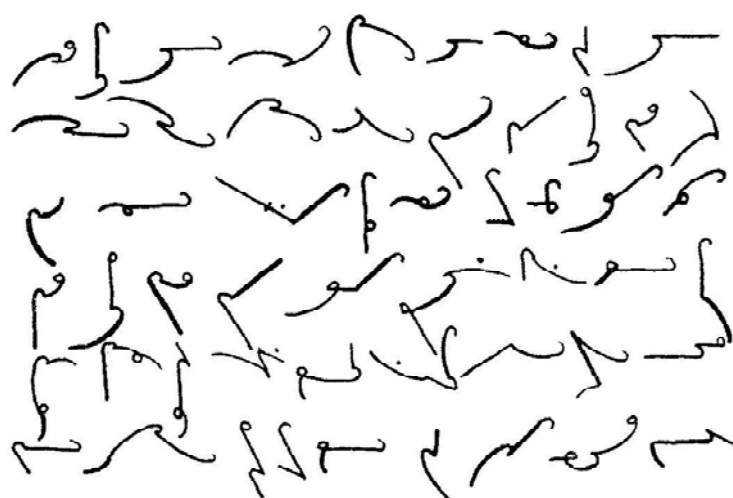
エ列	イ列	オ列	ウ列
エウ	イウ	オウ	ウウ
キョウ	キュウ	コウ	クウ
ショウ	シュウ	ソウ	スウ
チョウ	チュウ	トウ	ツウ
ニョウ	ニュウ	ノウ	ヌウ
ヒョウ	ヒュウ	ホウ	フウ
ミョウ	ミユウ	モウ	ムウ
リョウ	リュウ	ヨウ	ユウ
		ロウ	ルウ

長拗音 例題



好意	神戸	大阪	風紀	通信	数字	空気	
ひょうたん	中心	周囲	休暇	毛氈	道路	豊富	
尊重	明晩	評論	調子	商品	京都	入選	
習慣	頭脳	寄贈	興味	後期	十分	両親	
信号	使用	自由	気流	架空	微笑	疲労	
放送	交通	労働	東洋	要項	級長	優勝	

長拗音 読む練習



拗短音表

拗短音は、ア列の「カサタナハマラ」に長音と同じ大カギをつけて、
キャ、シャ、チャ、ニャ、ヒャ、ミャ、リャと読むことにします。

その他のよく使われる、シュ、シヨ、リヨ、キヨ、チョは、特にカ
ギのつけ方に注意し、ニュ、ニヨ、ヒヨはカギの中に加点することを
忘れないでください。

キヨ



シヨ



チョ



ニヨ



ヒヨ



ミヨ



リヨ



キュ



シュ



チュ



ニュ



ヒュ



ミユ



リュ



キャ



シャ



チャ



ニャ



ヒャ



ミャ



リャ

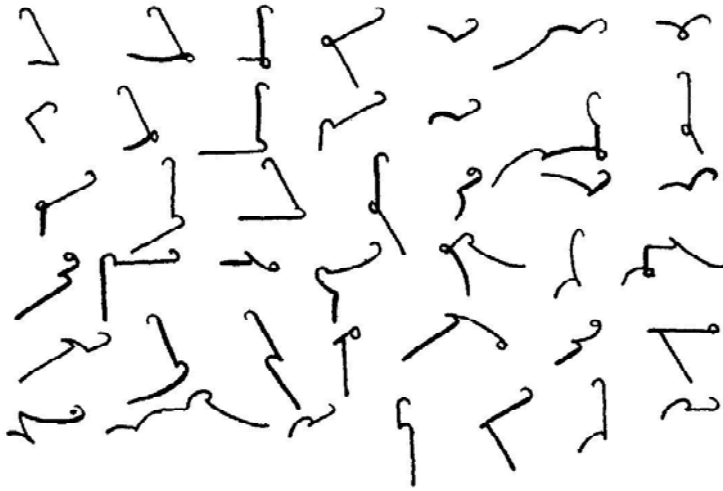


拗音の覚え方

キョウ	ケ	キュウ	キ	キヤ	カ	←
ショウ	セ	シュウ	シ	シヤ	サ	
チョウ	テ	チュウ	チ	チャ	タ	
ニョウ	ネ	ニュウ	ニ	ニヤ	ナ	
ヒョウ	ヘ	ヒュウ	ヒ	ヒヤ	ハ	
ミョウ	メ	ミユウ	ミ	ミヤ	マ	
リョウ	レ	リュウ	リ	リヤ	ラ	
チョ	キョ	リョ	ショ	シュ		

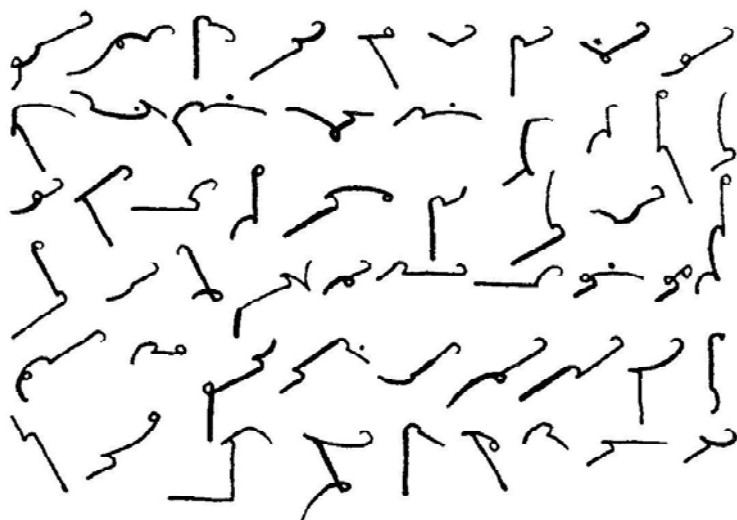
〔ユウはイウ、ヨウはエウ〕 を用います。

拗短音 例題



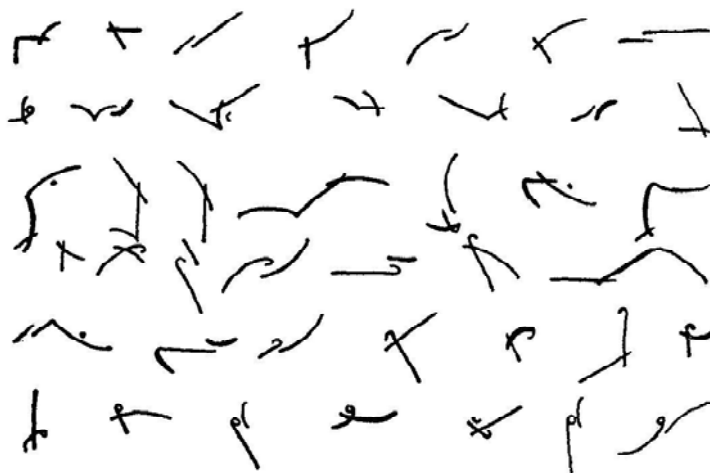
許可 去年 旅館 所見 趣意 茶店 社員
茶器 巨人 旅行 暑中 趣味 百面相 貯金
諸君 著書 挙行 旅券 準備 需要 邪魔
順序 考慮 行脚 省略 お茶碗 本社 お客さん
趣意書 漁場 漁業 端緒 援助 真珠 根拠
如来 釈迦様 取捨 躊躇 除去 著者 華奢

拗短音 読む練習



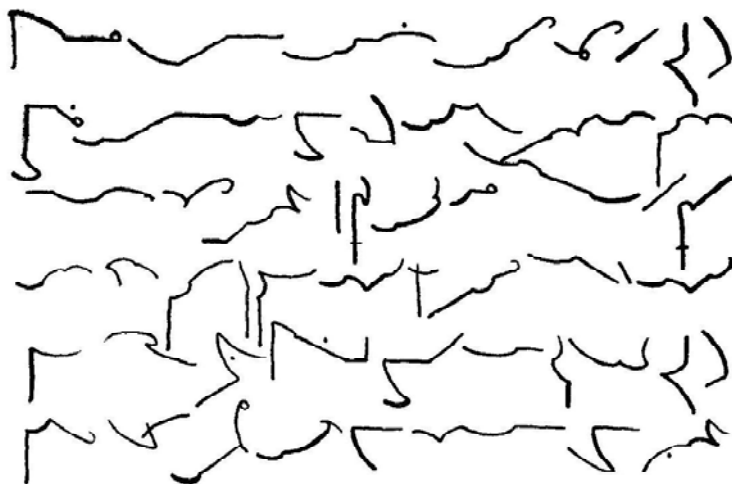
詰音

詰音 例題

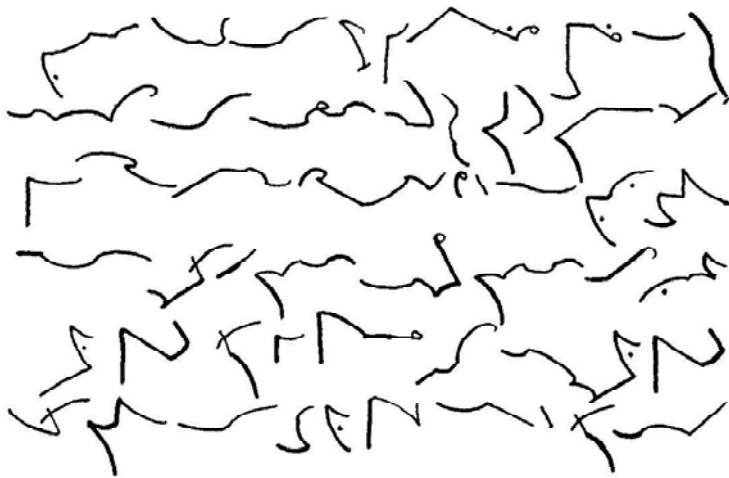


錯覚 楽器 取った 設置 質素 速記 国家
発信 実際 突発 厄介 発達 雑誌 結果
滑った 決定 よって 最も 発起人 うっかり 登った
あっち 一層 吉凶 節操 学校 越境 江戸っ子
歌った にっこり 摂取 特許 惹起 一寸 日中
デッサン 木琴 発見 熱心 突風 発展 率先

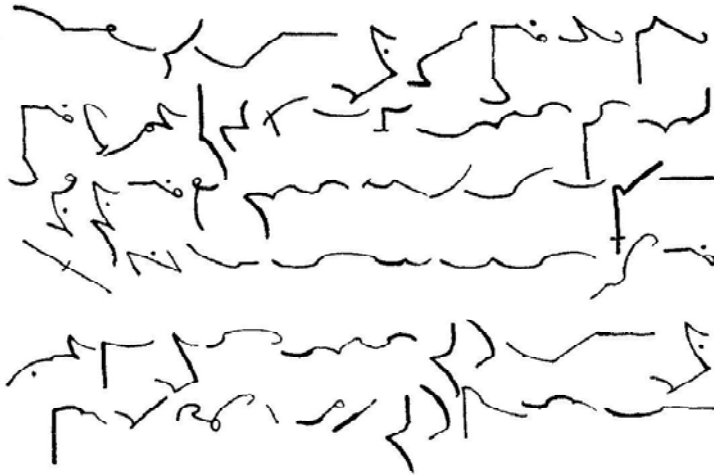
文章例題（詰音まで）



私はただ創案当時の昔のことを考えて
みまして、皆様と同じに若いころに何事かに文化的な
努力と熱意を感じ、非常に微力でしたが、そういうものが、
次第に1つの種子となって、次第に伸びてきて、そして今やまさに
私は花を開くかのところに近づいておると思うので
あります。これをこの際、これ以上に、本当に速記を通じて



我々の文化的な産物として、いよいよその花を咲かせる
ということは、私はやはり若い皆さんのその聡明な、
お力にすぎるのが、一番大切じゃないかと思うので
あります。どうか皆様は、現在の皆様は、ただ速記というものが、
技術であるというような、そうした考えではなく、速記は技術である
と
ともに、速記は1つの知恵である。さらに、その奥には速記を



通じて、大きな文化的な悟りがあるということを、ぜひお考え
くださいまして、皆様の日々の、速記ばかりではありません。いろい
ろ文化的な

ご努力の、そのせつなせつな、皆様は日本文化、あるいは人類
文化、そうしたものの何物かを、築きつつ

あるということを、私は皆様に申し上げたいのであります。

この意味において、私はただ単に一創案者という意味で、



なく、一日本国民といたしまして、皆様のこの上のご活動を、衷心祈りまして、今日の私のごあいさつにかえる次第であります。

〔中根式創案40周年記念式典での創案者あいさつの一節〕

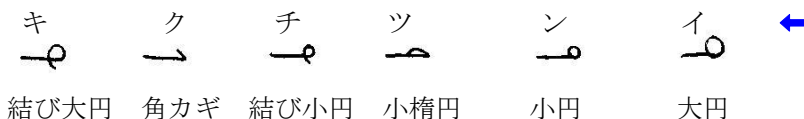
インツクキ法

私たちが日常用いております漢字には、加…カ、多…タ、津…ツのように1音のものと、聖…セイ、信…シン、活…カツ、吉…キチ、格…カクのように2音のものがありますが、この2音の漢字の2音目は、ほとんど「インツチクキ」の音になっています。このインツチクキの音を持つ、文字と文字の組み合わせによって、例えば、生命、音楽、澆刺、毎日、国民、責任等のようにたくさんの熟語が成り立っております。これを簡単に書く法則を「インツクキ法」と言います。

インツクキ法の中には「チ」の書き方も入っておりますが、吉…キチ、キツ、質…シチ、シツのように「チはツ」に通ずるところから、呼びやすく「インツクキ法」と呼んでおります。

書き方

2音目の「インツクキ法」は、それぞれ次の符号を「ン」と同じように逆記します。



3音目以下の

「ツ」は、文字と文字の間に空間をつくります。〔尾部空間〕

「チ」は、小円の外に点を打ちます。〔加点小円〕

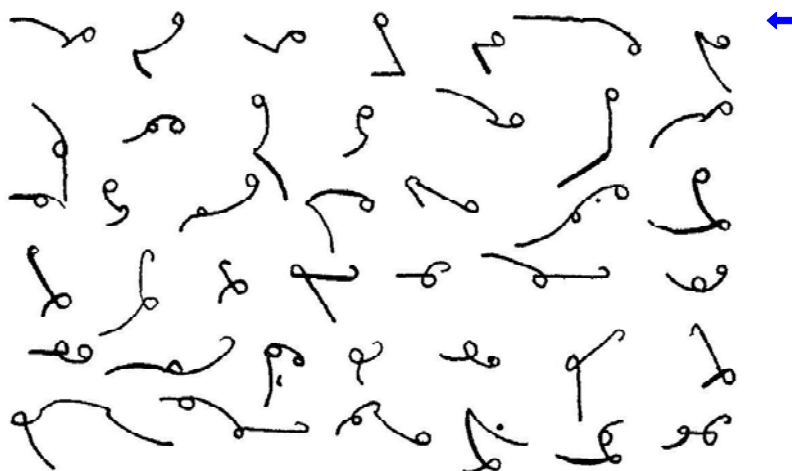
「ク」は、頭を出します。〔角出し〕

「キ」は、大円の中に点、または詰音のように交差します。〔尾部交差〕

*

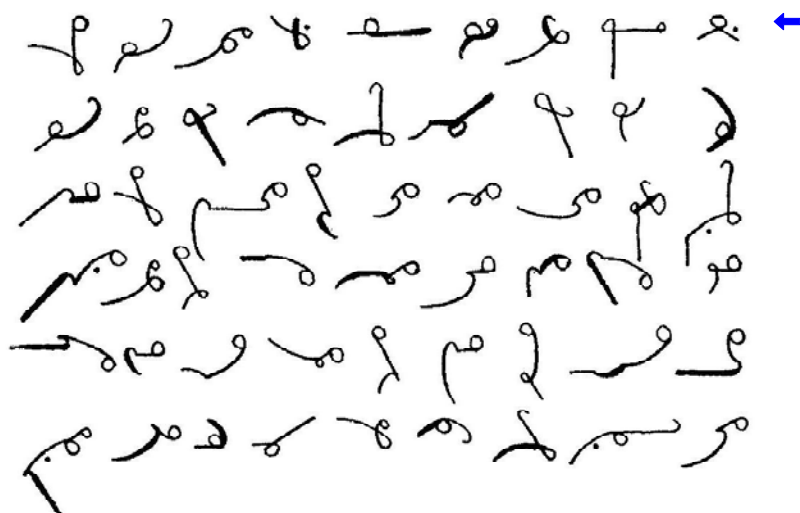
ト、ケ等の直線には右、コ、ツ等の直線には上、曲線には必ず内側につけます。

イ 例題

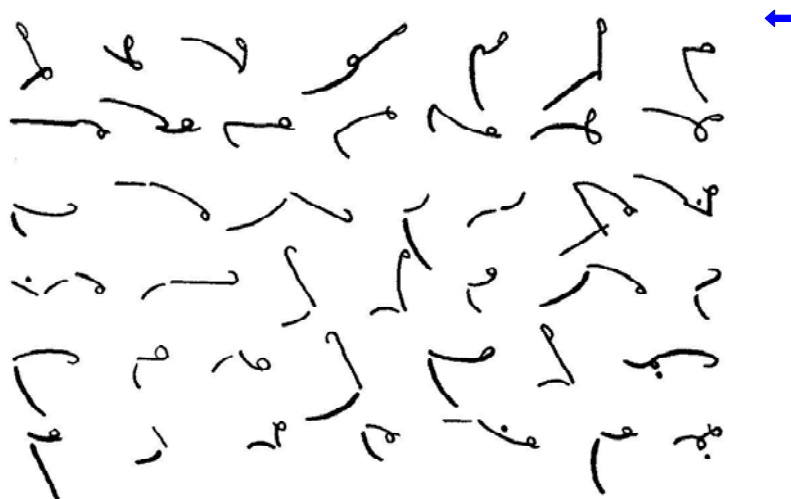


大要	整理	財布	経過	会議	英語	隘路
予定	邁進	平和	廃止	内容	程度	体操
以外	来週	生産	名誉	追求	推薦	例年
現在	法制	救済	合計	社会	光荣	親愛
内外	証明	隠蔽	集配	案内	到底	巨大
おもしろい	講演会	お医者さん	うれしい	再来年	社会人	

イ 読む練習

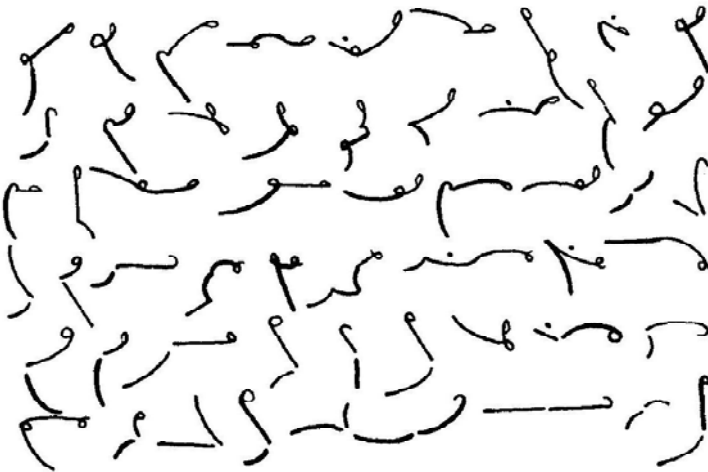


ツ、チ 例題

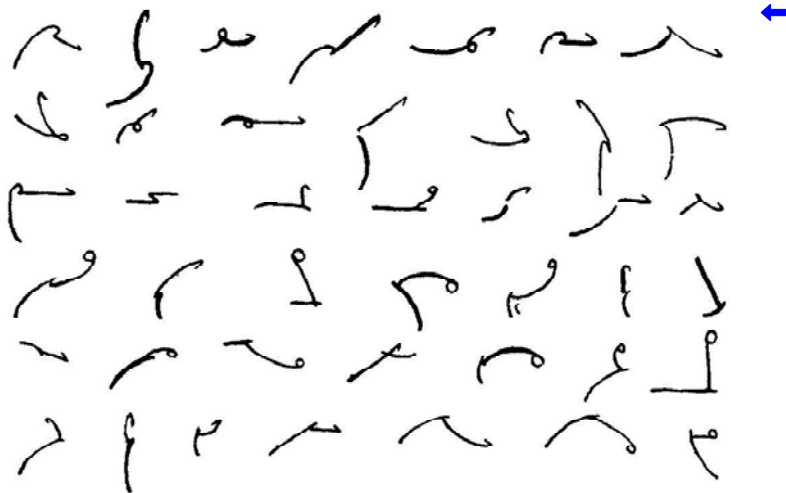


決断 立案 必要 突然 失望 鉄道 活路
イチゴ 日曜 こちら そちら 落葉 発明 撮影
能率 円滑 通説 熾烈 視察 エチケット 口笛
印刷物 考察 教室 本末 辛辣 演説 樹立
猛烈 開発 あいさつ 拒絶 熱烈 結末 明日
日月 期日 蜜月 一律 打ち勝つ 日没 たちまち

ツ、チ 読む練習



ク 例題



服装 牧場 肉親 独走 昨年 学者 屋上
 録音 たくさん 国民 特別 酪農 翌朝 目標
 国宝 科学 注目 申告 昨日 学説 握手
 生息 束縛 計画 迷惑 船舶 空白 下宿
 馥郁 満足 音楽 納得 明白 反則 定刻
 約束 白墨 宿泊 獲得 憶測 遠足 貫禄

拗短音とク

リャク ミャク ヒャク ニャク チャク シャク キャク



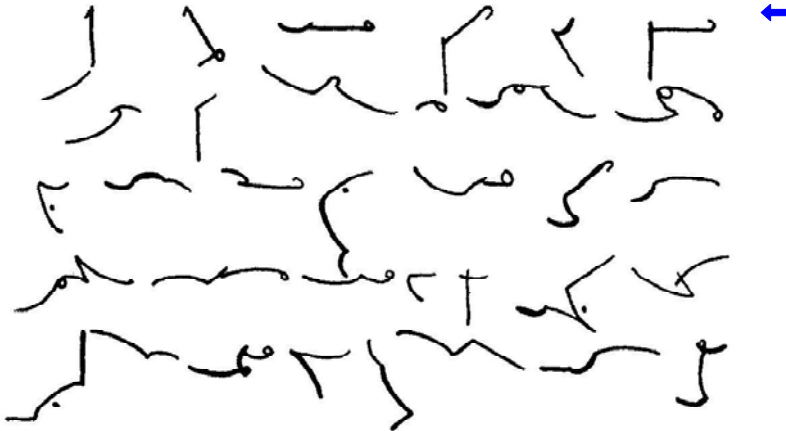
チョク キョク リョク ショク シュク

* **チャク**と**シュク**は、**同じ字形**になりますから、**シュク**は**シク**を用い、

チャクはタクを用いてもよいことにします。

効力はコウデク、時局はジケク、当直はトウテクのように、3音目以下のクは、頭を出すクを用います。〔角出し〕

拗短音とク 例題



直接 極端 こんにやく 当直 時局 効力

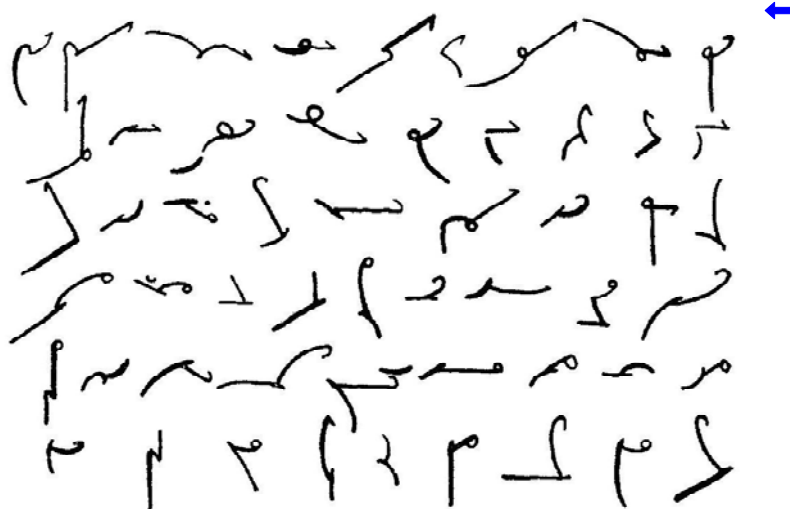
遠来のお客さんにまずお茶をたてましょう。

文字通りに解釈すればこういう意味になる。

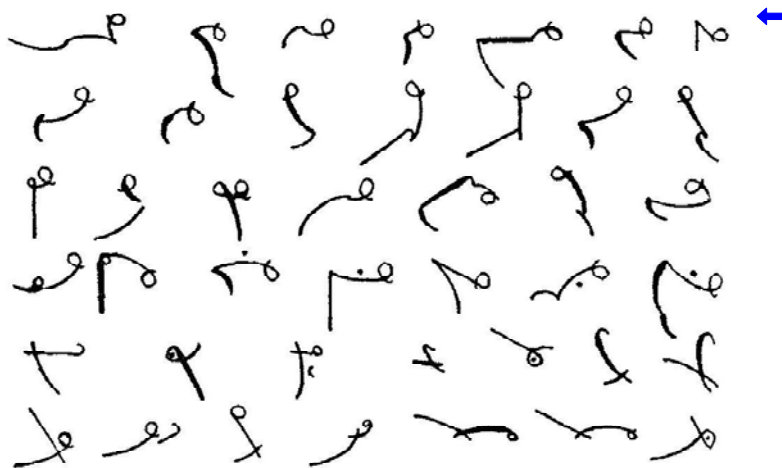
速記をとるようになってから何の悶着も起きません。

日本に文字が伝えられたのは何百年前ですか。

ク 読む練習



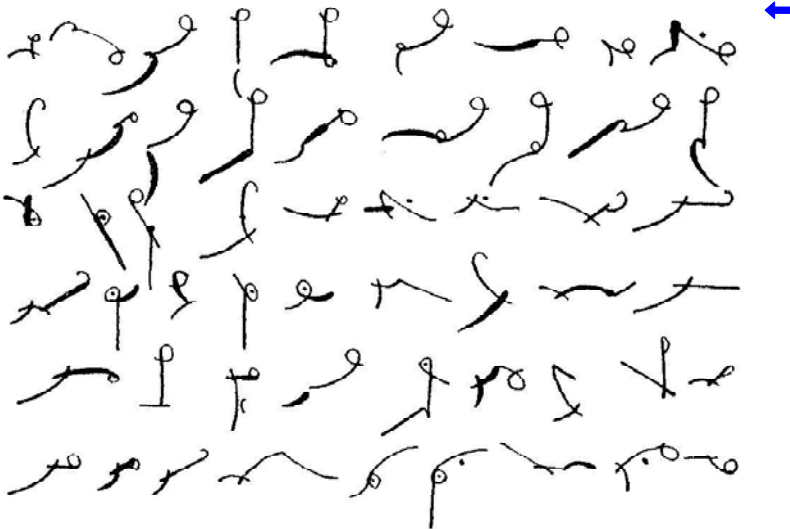
キ 例題



履物 まき割り 渚 たき火 先ごろ 限り 空き地

寂寞 牧場 歴史 劈頭 適當 石油 激流
式典 力説 賑わい 色素 憤り 脇役 焼きノリ
責任 駅伝 麦湯 抜き手 月夜 隙間 浮き彫り
コオロギ 刺激 完璧 落書き 五月 良識 貿易
欠席 出席 形式 親戚 免疫 餅つき 奇跡

キ 読む練習



注意

詰音は、組むか平行に書くことになっておりますが、「インツクキ」の符号を省いても反読に差し支えないものは、次のように書くようにします。

結婚 出発 物質 全く 欠席 発展 発達 密接 復活

→ へ へ へ へ へ へ へ へ へ

助詞

助詞には、花は、花の、花が 等のように、1音からなっているものと、花には、花とか のように、2音からなっているものがあります。この1音から成っているものを、**第一助詞**と言い、2音から成っているものを**第二助詞**と言います。

インツクキの符号は、文字の書き始めを、助詞符号は、文字の書き終わりを活用します。

第一助詞符号

符号

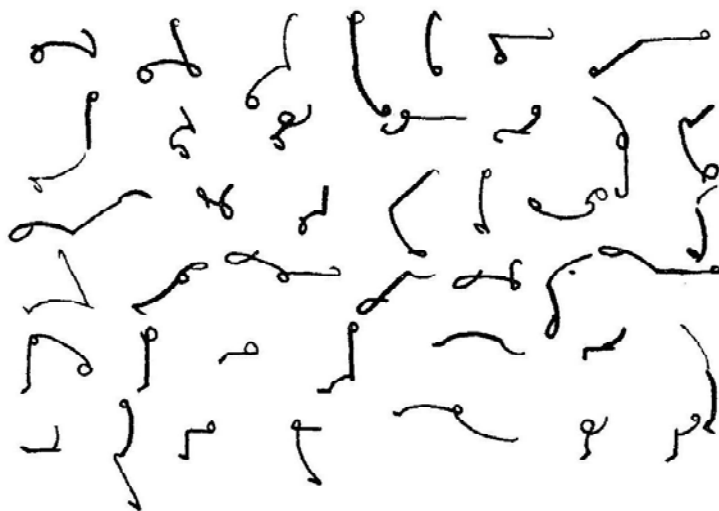


	。	は、ば……小円
	。	す、し……大円
	。	か……………結び小円
	。	の……………大カギ
	。	に……………小カギ
	。	を……………小楕円
	。	も……………結び小楕円
	。	て……………大楕円
	。	で……………結び大楕円
	。	と、ど、……キの方向にはねる
	。	が……………チ、カのみ
	。	た、した……タのみ
	。	ず、せず……フのみ

ペン書きを建前として立案されていますので、鉛筆で書く場合は「ワ」と「ニ」を次のように書いても差し支えありません。

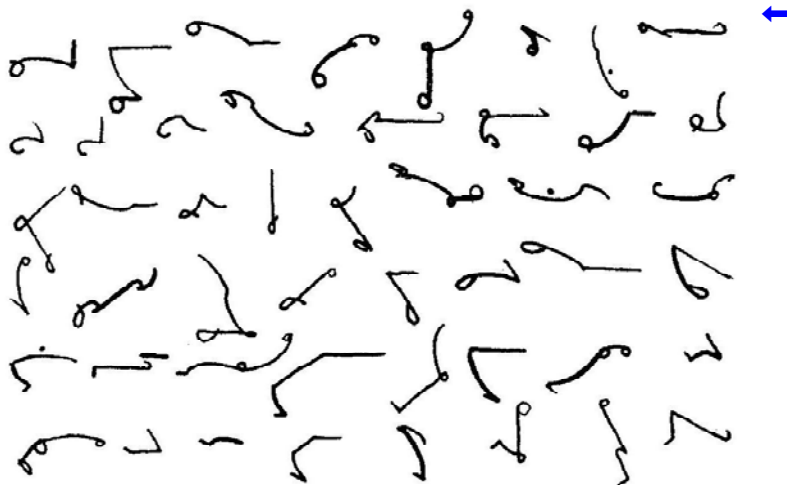
	。	「を」の小楕円は左巻き小楕円
	。	「に」の小カギは右巻き小楕円

第一助詞 例題 1



夢か 言明す 奔走す できれば 僕は 講義は 今度は
伝説に 記者に 次第に 個人の 人格は 予定の だろうか
認めて 場合も 草も 道路も 本を 才能を 差別を
曲目と 雑然と 公園で などで 注文で すべて 考えて
栄転した できた 書いた 電車が 雨が 自覚が 呼べど
比較せず 勉強せず 関知せず 軽んず 重んず 支配した 新築した

第一助詞 例題 2



雲か 転がす 返す 満足す 宣伝す 冬は 春は 幸福は
山の 近くの 朝の 大いに 紅茶に 黒板に 風か 花か
時計も 顔も 足も 手も 試験を 外苑で 犬を 今年の
本と 自動車で 喜んで 飛んで 書いて 決めて 越えて 連れて
無理だ 学校が 専門が 小鳥が ほとんど これと 漫然と 君と
問題にせず 聞かず 見ず 語らず 言わず 提案した 研究した 通知した

動詞

アリマス

「点」の位置で、読み方が決めています。

上段に点……………アリマス、ノデアリマス

上段にキの字の方向にはねる……………アリマシテ、ノデアリマシテ

下段に点……………アリマシタ、ノデアリマシタ

アリマシタ

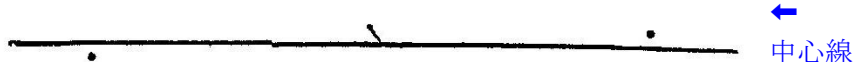
アリマシテ

アリマス

ノデアリマシタ

ノデアリマシテ

ノデアリマス



ゴザイマス

「ゴ」の字の最小線を使って、次のように書きます。

ゴザイマシタ

ゴザイマシテ

ゴザイマス

ノデゴザイマシタ

ノデゴザイマシテ

ノデゴザイマス



アル、オル、その他

「ある、おる、いる、する」は、下段にハ、ホ、ヒ、シと書き、「あった、おった」は、大カギをつけます。

オッタ

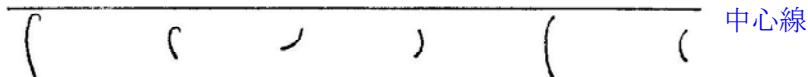
アッタ

スル

イル

オル

アル



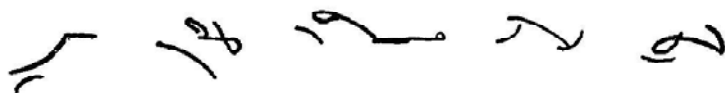
ノデ省略

「あるノデある、するノデある」のように、動詞の前に来る「ノデ」は省略します。

ナイ、シナイ、その他

「ない、しない、いない、えない、じゃない」の否定詞は、次のように文字の終わりを、**下からすくって**書きます。

風じゃない 機械を得ない 考えていない 使用しない 夢でない



デハ省略

「ものデハない、ことデハなく、そうデハなかった」のように否定詞の前に来る「デハ」は省略します。

ナカッタ、シナカッタ、その他

「なかった、しなかった」の否定詞は、文字の書き終わりを「タ」の最小線で切ればよいのですが、「デハない、デハなく、デハなかった」のように「デハ省略」の場合は、それぞれ下からすくって書きます。

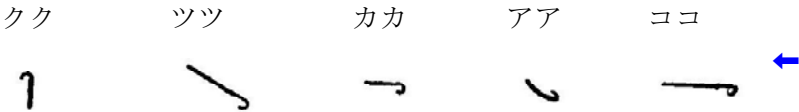
練習 しなかった 授業は なかった そうデハ なかった ことデハなく ものデハない



畳音その他

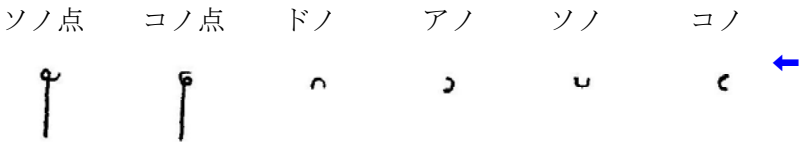
1 音繰り返し

畳音「1 音繰り返し」は、文字の書き始めに小カギをつけます。ただし、直線は長音の反対側に、曲線は必ず内側につけます。



コノ、ソノ、その他

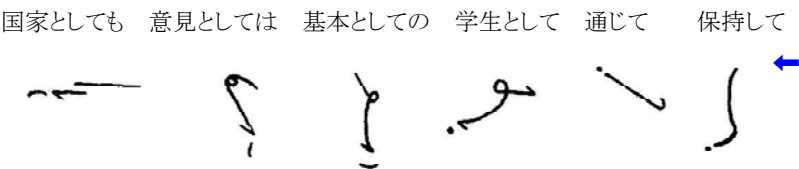
「この、その、あの、どの」は、次のように書きます。



シテ、ジテ、ナ

「して、じて、な」は、書き終わりに「点」を打ちます。

しての、しては、してもは、それぞれ点の位置に、基本文字の最小線を用います。



トイウ、ノヨウニ

「〇〇という、〇〇のように」は、非常にたくさん使われますので、次のように、助詞を省いて「イウ、ヨウニ」を続けて書きます。

ミタイトイウノデ モライタイトイウ コトイウ モノトイウ



コトノヨウナ

モノノヨウナ

コトノヨウニ

モノノヨウニ



オイテ、ツイテ、オケル

「〇〇において、ついて、おける」も、非常にたくさん使われますので、「ニ」の助詞を省いて、次のように書きます。

ものにおける

ものについて

ものにおいて



意味におきまする

意味につきまして

意味におきまして



的

「キ」の字を次のように書いて、「的」と読みます。

近代的な

合理的な

良心的

国家的

国民的

社会的



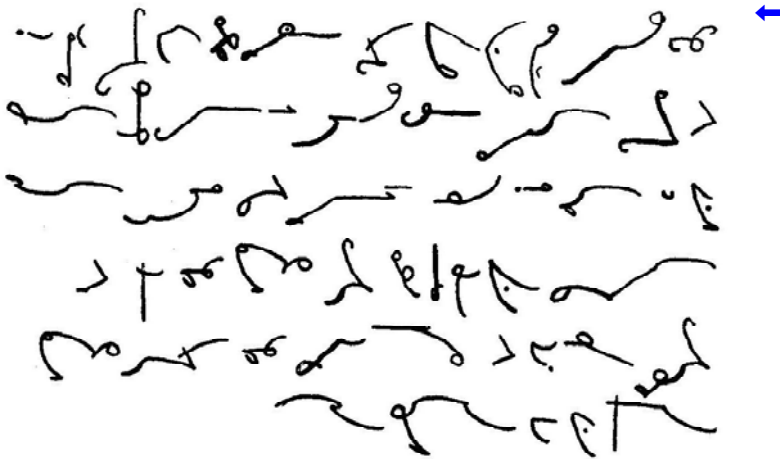
主義

「ギ」の字を中部交差して、「主義」と読みます。

楽天主義 放任主義 利己主義 民主主義 資本主義 社会主義

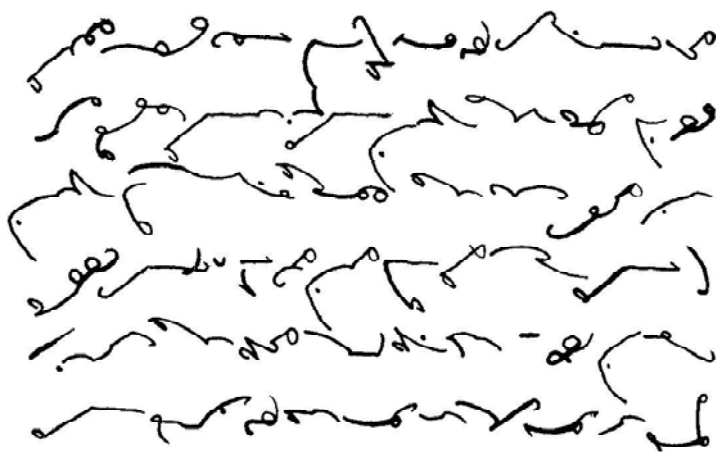


文章例題 (第一助詞、1音繰り返し、して、じてなどやさしい略字まで)



社会の制度が、進歩するにつれて、速記学のごときも、近代に至り、長足の発展をなして／きた。言語の文字とは、個人の生活上、欠くことのできないもので／あるが、その文字に関して、世界各国とも、競うて簡捷なものを／求めている。日本でも、近來ローマ字採用論が、盛んになって来たが、／ローマ字体を使いならしてきた英国などで、盛んに速記文字採用論が／起こっているからおもしろいと思う。

(創案当時の中根正親著速記講座の一節)

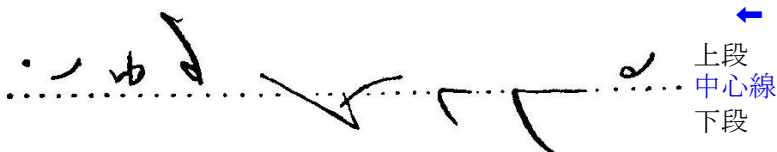


台風、豪雨等の被害が、年々巨額に上りまして、国民の生命財産等に／甚大なる損害を与えておられますことは、まことに遺憾千万に存じ／ます。大自然の猛威の前に、毎年のように、打ちのめされております、／我が国土を思うときに、これに対する対策の確立と、その実行との重大性を／痛感する次第でございます。今や、雨季を控え、台風期を前にいたしまして、ただ、／本年もまた、昨年と同様、否、昨年以下に、被害の少なからんことを。

上段

中心線の**上の位置**を**上段**、**下の位置**を**下段**と言いますが、**上段**には**漢字の訓読**を音記します。

私はこれから速記についてお話をいたしたいと思うのであります。



私……シ 考える……コウ 承る……ショウ (セウ)

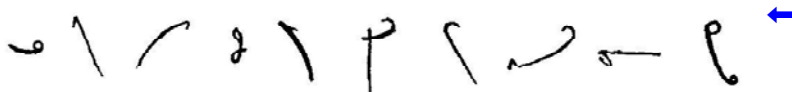
喜ぶ……キ 思う……シ 再び……サイ いたす……チ

のように、字音に直して書くのです。この訓読を音記したものは、普通の文字と区別するために、上段から書き始めます。

同音異義は、前後の文意文勢で判読できますが、**乱用は危険**ですから、初歩のうちは自分の能力に応じて、わかりやすいものからだんだん活用してください。

例題

認める 極めて 即ち 必ずしも お話 従って 今日 少なくとも 顧みるに 例えば



下段

下段には、次のように「ラ行」を省略したものや、特定略字を書くことにします。




ただし、「いたしたい、考えております」等のように上段文字に続けて書いても差し支えありません。

速記はさらに各人の日常生活にまで活用されねばならんと考えております。



ラ行省略

































ダ	タ	ソ	ザ	サ	カ	コ	←
ダリ	タリ	ソレ	ザル	サレ	カラ	コレ	
ダレ	シタリ		セザル	サル	カレ		
ヨ	ヤ	ウ	ミ	ナ	ド	ト	
ヨレ	ヤリ	ウル	ミル	ナリ	ドレ	トリ	
ヨル	ヤル	ウリ	ミレ	ナル		トル	

コハ	サニ	オ	ア	レ	ル	ラ	
							
コレハ	サラニ	オリ	アリ	レル	ルル	ラレ セラレ	

イツ	ワツ	カツ	ソツ	コツ
				
イワレ	ワレラ	カレラ	ソレラ	コレラ

下段略字



	ス	ナガラ、シナガラ		カ	関スル
	ソ	セントス、候		カテ	関シテ
	テ	ヲモッテ		フ	デス、アタワズ、ニモカカワラズ
	ト	通り		フン	ニモカカワリマセズ
	ド	ナド		フテ	デシテ
	キ	トキ		ツ	デシタ
	ク	クル、グライ		デ	デキル、マデ、デショウ
	ケ	ダケ		マ	マス、シマス
	ラ	ラル、ラレ		マツ	マスル、シマスル
	ロ	トコロ		モ	マシタ、シマシタ
	タ	ニ対スル、タメ		モツ	マシタル、シマシタル
	ベ	ベシ、スベシ		ミ	マショウ、シマショウ
	ベズ	ベカラズ		ニ	ナケレバナラン、シナケレバナラン
	ワ	ワレワレ		ネ	ネバナラン、セネバナラン
	メ	シメ、セシメ		ノ	マセン、シマセン
	メツ	シメル、セシメル		ノズ	ノミナラズ

㇏ シテ	シコウシテ	㇏ ム	シム、セシム
㇏ シツ	シカリ、シカル	㇏ ムツ	シムル、セシムル
㇏ ザエ	ザルヲエン	㇏ シ	シカシ
㇏ ザエン	ザルヲエマセン	㇏ シニ	シカルニ
㇏ ザエイ	ザルヲエナイ	㇏ シノ	シカシナガラ
㇏ カシ	カモシレン	㇏ シバ	シカラバ
㇏ カシン	カモシレマセン	㇏ シモ	シカモ
㇏ カシイ	カモシレナイ	㇏ シシテ	シカシテ

最大線

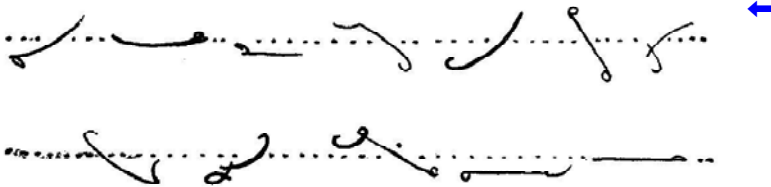
これまで用いてきました4ミリと8ミリの基本文字を1センチ2ミリの長い線に活用する省略法を最大線と言います。

それでは、どういう言葉を最大線にするか、次の漢字交じり文を読んでもください。

言葉のうちには、このように初めの1字がはっきりわかれば、次の字は□でも、文意によって性格に判読できる言葉がたくさんあります。そこで、こういう判読に差し支えない言葉の、初めの1字を最大線にして、後の字は省略します。


文例

速記の研□は時□の要□であり、これを日□生□に／活□するこ□は文□人の常識であるとお□□のであります。




例題

 ハン はばからん

 ブン 文化

 モン 問題

 エウ 要求

 キョウ 教育


 ケイ 経済

 セイ 政府

 シツ 質問

 ゴシツ ご質問

 イチ 一番

 セチ 政治


 コク 国民

 モク 目的


 ショク 食料、職業

 セキ 責任

 レキ 歴史

 コ こと

 セ 説明

 ゴセ ご説明

 フ 奮闘

 ブ 部分

 ム 矛盾

 モ モノ

 ヤ やむを得ない

 ヤズ やむを得ず

 ヤザ やむを得ざる

 ヤト ややもすると

 ヤバ ややもすれば

 エン 演説

 ゴエン ご演説

 カン 関係

 コン 根本

符省法

長音、拗音、インツクキに用いる今までの符号を省略して書く方法を符省法と言います。

両大カギ省略

「大カギ」のつく2字からなっている熟語は、両大カギを省略して、次のように書きます。〔中部接触〕

高等 了承 東京 流行 交通 要望 航空

ㄉ ㄌ ㄘ ㄏ ㄋ ㄎ ㄏ ←

両小円省略

「ン」のつく2字からなっている熟語は、両小円を省略して、次のように書きます。〔中部空間〕

敏感 懇談 人民 本年 専門 玄関 新聞

ㄣ ㄆ ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ ←

両大円省略

「イ」のつく2字からなっている熟語は、両大円を省略して、次のように書きます。〔中部交差〕

閉会 開催 訂正 幸い 声明 例外 体裁

ㄣ ㄆ ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ ←

交差平行法

成句でよく出る熟語は、前の言葉に後の言葉の頭文字を交差するか、平行にします。

なお、自分で判読に差し支えない程度に省略して書くことが大切です。

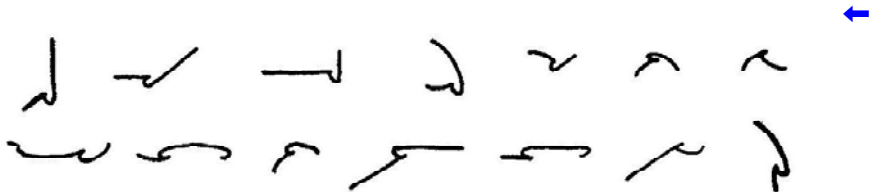
電気会社 全会一致 満場一致 内閣総理大臣 農林大臣 大蔵大臣 文部大臣
公共企業 需要供給 公共事業 金融機関 機会均等 門戸開放 権利義務



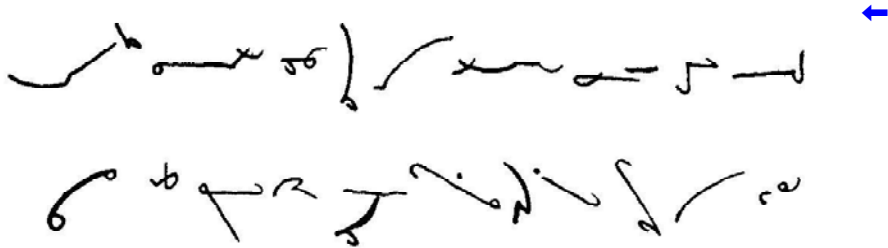
節音法

訓読みの言葉で、2つ以上の節音からできているものを、**節音語**と言います。この2つの節音字を結ぶとき**中間小カギ**を使います。

できるだけ とにかく 近ごろ 世の中 ただいま 今さら 有様
しかのみならず 申すまでもなく 皆様 ご承知の通り 心がけ 何とぞ 我が国



文例

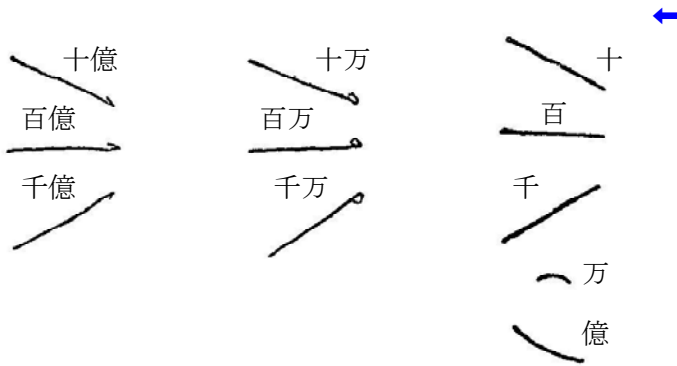


近ごろ、各地の学校で、中根式速記が、非常に盛んになったことは、喜びにたえません。／私はこの速記教育を通じて、我が国文化の向上に、いささか貢献いたしたいと存じます。

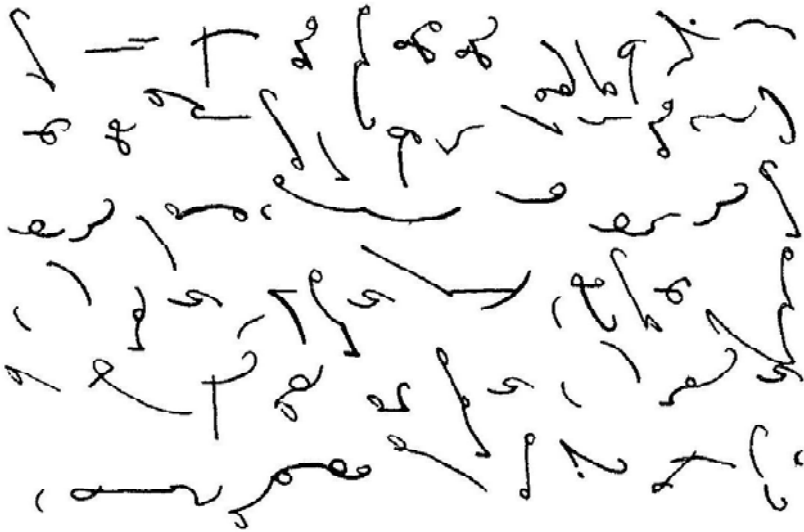
数詞

十、百、千は基本文字の「ツ、コ、ト」の最大線にします。それに「ン」をつけて十万、百万、千万
「ク」をつけて十億、百億も千億
万と億が単独のときは「マ」と「オ」の基本文字をつけます。

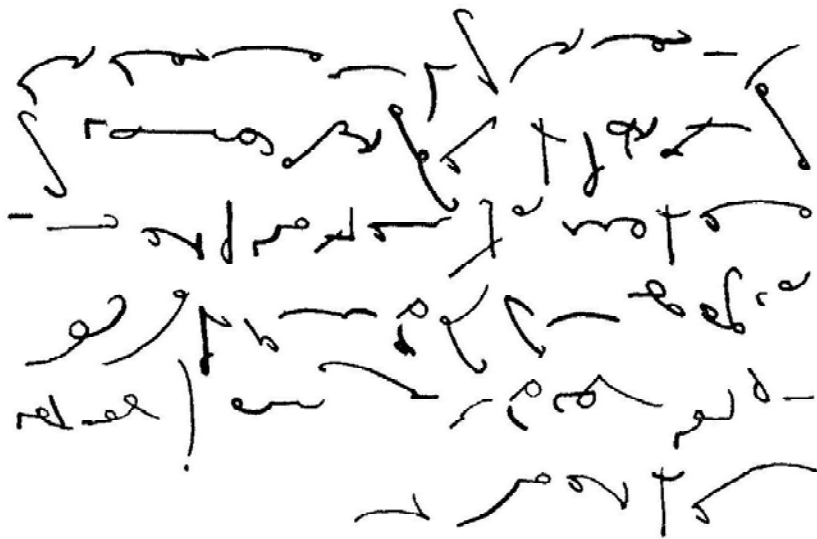
数字の基本



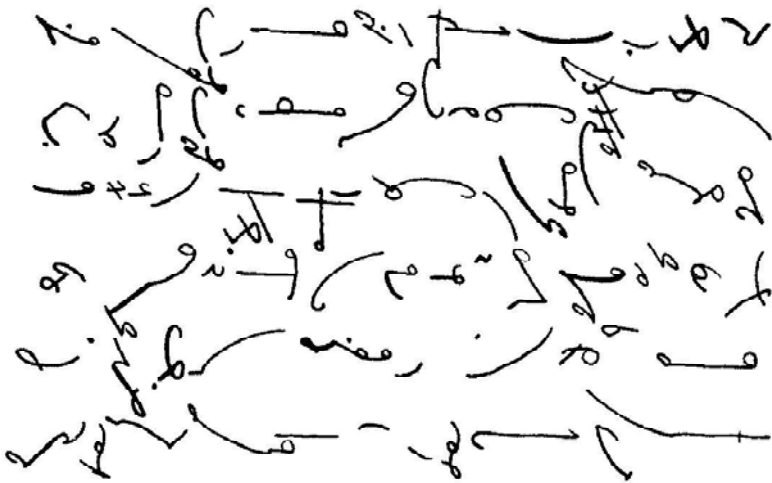
文例



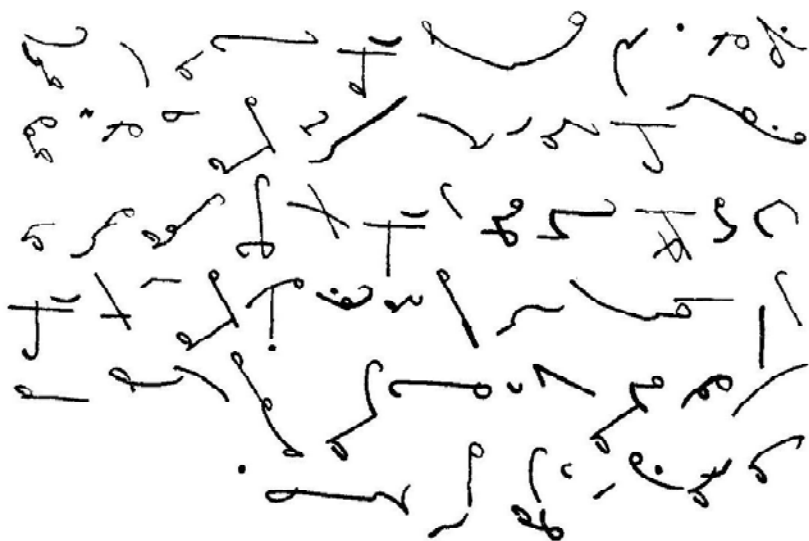
今、うわさをされておるところによりますれば、衆議院も参議院も、本法の審議をめぐって、学校教育という／＼枠の中の審議は、かなり尽くされたと言われておる。ところが教育はご承知のように、並んで社会／＼教育が重視されなければならない。むしろ日本においては、この面より重視しなければならない／＼本法における社会教育に関連のある条項について、いかなる議論が交わされ、いかなる批判が与えられ／＼いかなる賞賛が与えられ、いかなる結論があったかを、子細に承って起きたい。次に／＼この法律の最も大きな点は、委員任命制にするということである。



それから学問、思想、教育と並べましたが、もちろん学問や思想や
／研究は、最も自由であるべきであって、特に言論の自由等は言うま
でもないことですが、教育の／問題になって参りますと、私
はちょっとそこに違った感じが、出てくるように考えるのでございま
す。／私はこの法案を扱いまして、いろいろ世論の対立を見ましたと
きに、あくまでも政治情勢／から来ているかもしれませんが、お互い
の対立されたご意見の中には、非常な不信感、疑惑感が／もとなっ
ているように感ぜられました。



ただいま議題となりました日本国有鉄道法の一部を改正する法律案につきまして、運輸／委員会における審議の経過並びに結果をご報告申し上げます。まず、政府が今回この法律案を提出するに至りました／経緯の概要を提案理由により申し上げますと、日本国有鉄道は、公共企業体として昭和24年／発足以来既に6年余を経過したのでありますが、この間、管理組織の変更、その他制度的に幾たびか／改正を加えて参った次第であります。しかし何分にも組織が膨大な企業でありますので、／過去において、いろいろ国民の批判もあり、また国会においても絶えず、批判と指導を



受けて参ったのであります。他方、政府においても日本国有鉄道を国民のために、より能率的に／運営し、公共の福祉に資するように努力し、種々検討を加えて参ったのでありますが、最近に／至り臨時公共企業体合理化審議会及び日本国有鉄道経営調査会の答申を参酌し、さらに／今日まで国会においてなされた決議その他を十分に尊重して検討を加えた結果、日本国有鉄道の／組織、財産管理等につき、その改善の方途に結論を得ましたので、これを／速やかに実施に移すため、この法律案を提出したものであるということです。

出典：中根洋子著「中根式速記の基本教程」（昭和31年12月25日発行）